

DX・データ活用支援ナレッジ集 【ブートキャンプ概要集】

**経済産業省関東経済産業局
地域経済部デジタル経済課**

令和6年9月

はじめに

本書の目的

本書は、令和5年度に実施したデータ活用人材育成事業（通称：「地域中小企業データ活用ブートキャンプ事業」（以下、「本事業」という。））の概要をまとめたものである。本事業の取組を知ることで、地域の支援機関及び企業が「どのようにDX・データ活用を実施するか」を理解促進させ、過去の事業内容を参考に、自らデータ活用に挑戦することを促すものである。

本事業について

令和3・4・5年度において、関東経済産業局と株式会社クニエによりデータ活用人材育成事業を実施。「地域中小企業のデータ活用人材」と「支援機関のコーディネータ人材」を対象とした育成事業であり、地域企業のDX推進を主目的とするものである。3カ年度の事業において、15地域で延べ21団体（自治体、金融機関等の支援機関）と連携し、38社への支援を実施した。

本資料の用語

用語	意味
事務局	組織や団体の中で事務を担当する機関。本資料においては、関東経済産業局と株式会社クニエのこと。
ブートキャンプ	軍隊式トレーニングの総称。本事業では、集中的にトレーニングをする意味で使用。
リスキリング	DXや第4次産業革命といった社会の変化に対応するための知識や技術を学び直すこと。
ワークショップ	参加企業、連携団体を対象に実施する研修プログラムのひとつ。
DX(デジタルトランスフォーメーション)	デジタル技術やツールを導入すること自体ではなく、データやデジタル技術を使って、顧客目線で新たな価値を創出していくこと。また、そのためにビジネスモデルや企業文化等の変革に取り組むこと。
DXコーディネータ	連携団体（地方自治体及び関連団体、地域金融機関など）で任命した地域中小企業の支援者。
DX推進スキル標準	DXを推進する人材（DX人材）の役割や習得すべきスキルの標準を定めた指針。
DXリテラシー標準	すべてのビジネスパーソンが身につけるべき能力・スキルを定義し、働き手一人ひとりがDXに参画し、その成果を仕事や生活で役立てる上で必要となるマインド・スタンスや知識・スキルを示す、学びの指針。

DX関連用語

用語	意味
ダッシュボード	様々なデータを一覧表示する画面。
データサイエンス	データの分析についての学問分野。統計学、数学、計算機科学などと関連し、主に大量のデータから、何らかの意味のある情報、法則、関連性などを導き出すこと。またはその処理の手法に関する研究。
ビッグデータ	巨大なデータ。テキスト、画像、動画、音声などさまざまな種類・形式のデータを指す。
AI（Artificial Intelligence）	人が実現するさまざまな知覚や知性を人工的に再現するもの。
BI（Business Intelligence）	経営で得たデータを集積したり分析を行ったりすることの総称。
IoT（Internet of Things）	「モノのインターネット」を意味し、家電製品・車・建物など、さまざまな「モノ」をインターネットと繋ぐ技術。
Kintone（キントーン）	プログラミングの知識がなくても、ノーコードで業務のシステム化や効率化を実現するアプリがつけれるクラウドサービス。
VBA（Visual Basic for Applications）	主にマイクロソフト製のMicrosoft Officeシリーズに搭載されているプログラミング言語。

目次

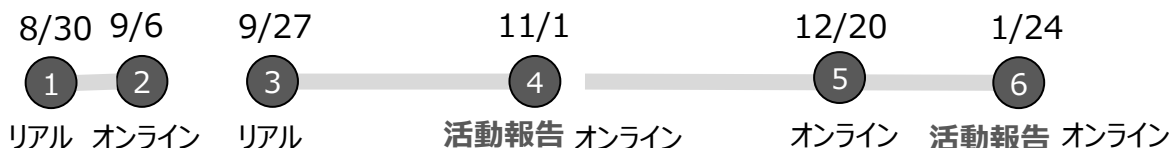
1. 地域中小企業向け研修
 1. 講義
 2. ワークショップ
 3. 活動報告会
2. 企業別個別相談会
3. DXコーディネータ向け研修
 1. 講義
 2. ワークショップ
 3. 支援結果報告会
4. 実施結果

1. 地域中小企業向け研修

研修内容・スケジュール（地域中小企業向け）

- 地域中小企業向け研修にて、**データ活用の必要性や進め方・アプローチ、社内データの有効的な利用方法などを習得**。個別相談会にて、個社ごとに活動をサポート。

6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
----	----	----	----	-----	-----	-----	----	----



Step1 : 理解

データ活用理解

データ分析
ツール理解

「データ活用」研修

- ・データ活用の有意性、活用手段、分析手法、世の中の動向、活用ツールを理解する
- ・自社の経営課題・業務課題に対するデータ活用による解決方法を立案する力を身につける



Step2 : 企画

テーマ
検討

活動
計画
検討

活動
計画
作成

「活動計画書」作成

- ・自社の経営課題・業務課題の解決に向けて、データ活用活動計画を立案する
- ・データ活用の目的、現状把握（業務課題・データ状態）、将来のありたい姿とその効果を仮説立案し、机上で検証する

Step3 : 実施

要件定義

データ準備

分析・モデル構築・検証

現状調査・構想

ツール選定・設計

BI導入・構築

企画ブラッシュアップ

実証実験

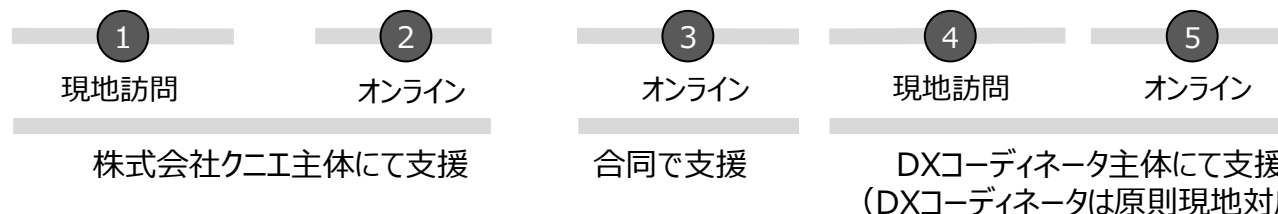
- ・データ活用活動計画に基づき、データ活用の効果を検証する
- ・仮説立案・机上検証の結果をツール等を用いて実証し、データ活用の効果を測る



地域
中小
企業
向け
研修

個別
相談会

※開催日は
個別に調整



地域中小企業向け研修スケジュール

研修 ステップ	開催回 開催方法	日時	内容
Step 1	第1回 リアル	2023年8月30日（水） 13:00-17:00	・参加企業・DXコーディネータの自己紹介 ・データ活用・課題整理方法理解 ・活動計画書の考え方 ・課題整理ワークショップ
	第2回 オンライン	2023年9月6日（水） 14:00-17:00	・データ分析ツール理解 ・事例紹介① PowerBI事例 ・BIツール演習（初級編）（任意参加） ※担当DXコーディネータ参加必須
Step 2	第3回 リアル	2023年9月27日（水） 14:00-17:00	・活動計画策定方法 ・事例紹介② 製造業系データ分析の手法 ・活動計画報告会の進め方 ・ワークショップ（テーマ）
	第4回 オンライン	2023年11月1日（水） 10:00-16:30	・活動計画報告会 ・実証の進め方 ・BIツール演習（個別）※①
Step 3	第5回 オンライン	2023年12月20日（水） 14:00-15:30	・事例紹介③ 他社のDXの継続的な取組 ・活動報告会の進め方
	第6回 ハイブリッド	2024年1月24日（水） 13:00-17:00	・活動報告会 ・支援施策紹介 ・修了式

※①：午前・午後の部に分けて開催し、間に活動計画報告会を開催。BIツール使わない参加企業は個別相談会を実施。

1. 地域中小企業向け研修

1. 講義

地域中小企業向け研修 講義 コンセプト

- 地域中小企業向け研修では、変革をもたらすために必要な要件「DXリテラシー標準」を持つ人材育成を行うための研修プログラムを構成している。

DXリテラシー標準

DXリテラシー標準策定のねらい

働き手一人ひとりが「DXリテラシー」を身につけることで、DXを自分事ととらえ、変革に向けて行動できるようになる

Why DXの背景

社会の変化
顧客価値の変化
競争環境の変化

What DXで活用されるデータ・技術

データ	社会におけるデータ
	データを読む・説明する
	データを扱う
	データによって判断する
デジタル技術	AI
	クラウド
	ハードウェア・ソフトウェア
	ネットワーク

How データ・技術の活用

活用方法・事例	データ・デジタル技術の活用事例
	ツール活用
留意点	セキュリティ
	モラル
	コンプライアンス

マインド・スタンス

デザイン思考／アジャイルな働き方

新たな価値を生み出す
基礎としてのマインド・スタンス

顧客・ユーザーへの共感	常識にとらわれない発想	反復的なアプローチ	
変化への適応	コラボレーション	柔軟な意思決定	事実に基づく判断

データ活用・
課題整理方法理解

データ分析ツール理解
事例紹介①
PowerBI事例

事例紹介②
製造業系データ分析
の手法

事例紹介③
他社のDXの継続的
な取組

地域中小企業向け研修 講義（1/2）（第1回、第2回）

概要

各社、DXを推進していくために必要な課題整理のアプローチ方法、またはデータ分析ツールの一つであるBIツールの使い方について講義を行い、実務の適用方法について体得を図る。

効果

■ DXビジョンやロードマップ策定方法の学習

- DXビジョン（未来のありたい姿）を構想し、ロードマップに落とし込む際の方法・事例の学習

■ BIツールの学習

- BIツールの概要理解や使い方に対する理解
- BIツールを活用した実際のケースに対する学習

進め方とアウトプットイメージ

データ活用・課題整理方法理解

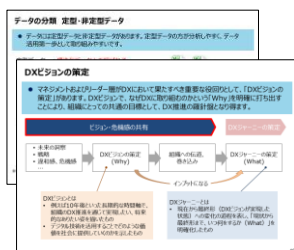
第1回

事例の類型化

データ分析ツール理解

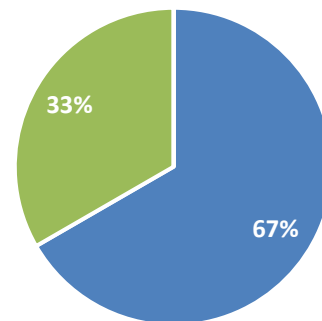
第2回

事例紹介① Power BI事例



データ活用・課題整理方法理解 研修評価

データ活用への全体理解では概ね高い評価を得ることができた。



DXビジョン、ロードマップ策定方法等とデータ活用を行うために必要な方法論や課題整理のアプローチ方法について講義を実施。

データの視覚化の重要性やBIツールのPower BIの使い方について講義を実施。

Power BIを実際に活用したケースを紹介。各社の実際の業務への適用方法を模索する。

■ 4.満足 ■ 3.概ね満足 ■ 2.やや不満 ■ 1.不満

地域中小企業向け研修 講義（2/2）（第3回、第5回）

概要

実際に企業が取り組んでいる分析手法や継続的なDXへの取組ステップの方法論について講義を行い、今後、各社の継続的なDXの発展に向けた知識の体得を図る。

効果

■発展的なデータ分析技術に対する知識の体得

- 機械学習や画像認識、時系列分析、数理計画の分析手法を用いた、実務への適用方法や効果・事例について学習

■継続的なDXへの取組ステップに対する理解

- 継続的なDXへの取組に必要な領域(①戦略/②業務プロセス/③組織・人材/④ITツール)それぞれに必要な取組ステップへの理解

進め方とアウトプットイメージ

事例紹介② 製造業系データ分析の手法

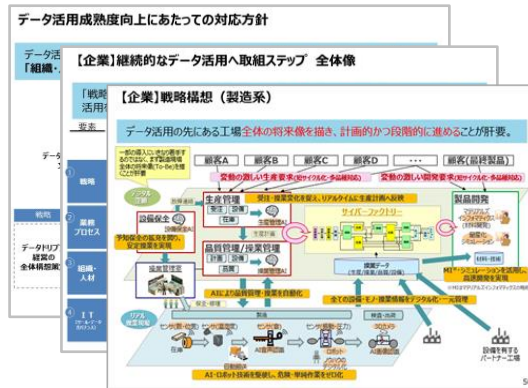
第3回



製造業で活用されているデータ分析手法(時系列分析や機械学習等)や適用例を中心に学習し、今後の各社のDX発展に向けた知識を体得。

事例紹介③ 他社のDXの継続的な取組

第5回

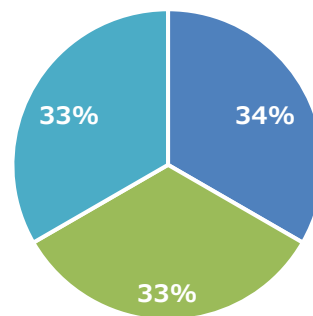


企業全体で継続的なデータ活用の取組を実施していくために必要なステップや取り組むべき領域・事例に関して講義。

アンケート結果

事例紹介② 研修評価

専門的な研修においては、専門用語や各社の課題への訴求という点で課題があり、一部の評価が芳しくない結果となった。



■ 4.満足 ■ 3.概ね満足 ■ 2.やや不満 ■ 1.不満

- 1. 地域中小企業向け研修**
- 2. ワークショップ^o**

地域中小企業向け研修 ワークショップ（第1回、第3回）

概要

DXのあるべき姿の実現に向けたロードマップの策定方法・活動計画の進め方についてワークショップ形式で実施し、知識体系化を図る。

効果 ※アンケート 一部抜粋

■ 自社課題の把握

- ・ DXコーディネータのアドバイスを踏まえた、自社状況の整理
- ・ ワークショップを実施したことによりあるべき姿や目標が明確になり、今後の活動がやりやすくなった

■ ビジョン策定方法の学習

- ・ ビジョン策定方法の難しさを改めて認識した

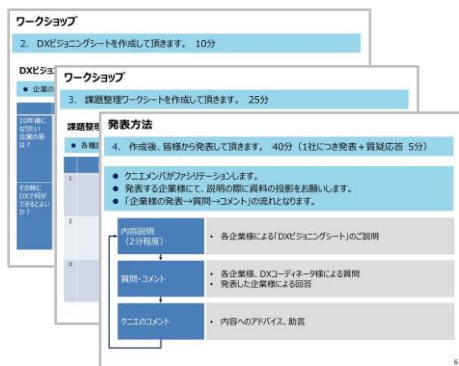
■ PJの進め方に対する学習

- ・ 詳細活動計画作成に対し、最終ゴール、全体像を見据えながら、課題を明確にしていく手順が勉強になった

進め方とアウトプットイメージ

課題整理ワークショップ

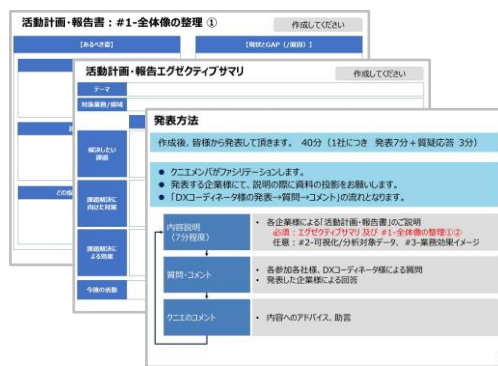
第1回



DXのあるべき姿を実現するにあたり、課題、要因、対策、効果、そのための可視化・分析方法、及びビジョンについて各社で整理を実施し、発表を行う。

テーマ別ワークショップ

第3回

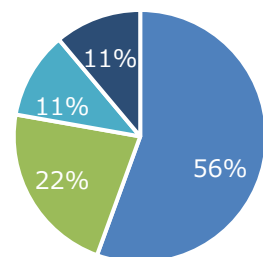


参加した企業ごとに、エグゼクティブサマリーと活動計画の作成結果を発表し、コメントを出し合う。

アンケート結果

課題整理 ワークショップ 研修

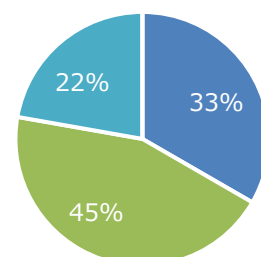
事前準備によって満足度に差が出たが、各社ビジョンが明確になり、満足度の高い結果となった。



■ 4.満足 ■ 3.概ね満足
■ 2.やや不満 ■ 1.不満

ワークショップ（テーマ） 研修

ワークショップの時間不足以外は、課題とテーマが整理でき、概ね満足度の高い結果となった。



■ 4.満足 ■ 3.概ね満足
■ 2.やや不満 ■ 1.不満

本事業のアウトプット①

本事業では、各企業で課題整理に基づき「データ活用テーマ」を設定し、「データ活用活動計画・報告書」を提出する。

DXによる将来ビジョン整理

DXビジョニングシート

- 企業の未来を想像してみましょう！

	未来の姿	実現するための課題
10年後に なりたい 企業の姿 は？		
その時に DXで何が できるとい か？		

データ活用課題整理

課題整理ワークシート：#1-課題整理シート

- 課題に対してデータ活用のアイデア出しを行います。

	課題	要因
1		
2		
3		

課題整理ワークシート：#2-現状とあるべき姿の定義

- 課題に対してデータ活用のアイデア出しを行います。

	課題	現状	あるべき姿
1			

課題整理ワークシート：#3-タスク整理

行う必要のあるタスク	
【事前準備】	【社内調整】
【分析実施】	【アクションの検討】
【その他】	

本事業のアウトプット②

本事業では、各企業で課題整理に基づき「データ活用テーマ」を設定し、「データ活用活動計画・報告書」を提出する。

データ活用活動計画・報告

自己評価

活動計画・報告エグゼクティブサマリ

テーマ	対象業務/領域
解決したい課題	
課題解決に向けた対策	

活動計画・報告書：#1-全体像の整理 ①

【あるべき姿】	【現状とGAP（//原因）】
一言でいうと	
誰が、どう、うれしい？	

活動計画・報告書：#1-全体像の整理 ②

【GAPを埋める解決策】	
短期目標	
中期目標	

活動計画・報告書：#2-可視化/分析対象データ

【分析対象データ】					
対象データ	既存or新規	データ取得元	情報の所有者	データの状況	備考
インフラデータ	既存or新規	取得元	所有者	データの状況	備考

活動計画・報告書：#3-業務効果イメージ

Before	After

【作成用アイコン】

作業者

作業内容

活動計画・報告書：#4-可視化/分析の詳細

全体イメージ	課題/メモ
■（説明を付記） イメージ図、絵、画像などを添付	ビジネス上の課題 課題の背景 その他課題/気になる事

自己評価：総括

テーマ	対象業務/領域
1. 実行計画と成果	

Step2報告で設定した目標への評価

短期目標

中期目標

自己評価：チェックリスト①

今回取り組んだデータ分析のフェーズごとの達成度について記載内容のセルフチェックを行いましょう。あくまでもセルフチェックなのでいくつかチェックがついたかよりも活動を振り返って次のアクションにつなげましょう！

計画を立てられたか	仮設構築できたか	データが集められたか
●/6	●/6	●/5

自己評価：チェックリスト②

今回取り組んだデータ分析のフェーズごとの達成度について記載内容のセルフチェックを行いましょう。あくまでもセルフチェックなのでいくつかチェックがついたかよりも活動を振り返って次のアクションにつなげましょう！

分析を行ったか	事後的な効果があったか	活動全体について
●/6	●/6	●/5

※達成できているフェーズまでセルフチェックしてください

データ活用活動計画の事前作業

- 活動計画書の作成に向けて、事前に考え方を整理する。

#	様式	作成の目的
0	DXビジョニングシート	企業が目指すDXビジョンに基づき、データをどのように活用していくか再確認し、社内で共通認識を醸成。

#	様式		作成の目的
1	課題整理 ワークシート	課題整理 シート	- 課題解決アプローチに則り、構造的に整理。 - 課題～要因～対策～期待する効果を整理し、可視化/分析によるデータ活用のテーマ案を導出。
2		現状と あるべき姿の 定義	現状とあるべき姿を比較して、Gapとなる部分＝課題を整理。
3		タスク整理	データ活用を実現するに要するタスクを抽出。

データ活用活動計画書フォーマット

- 活動計画書の各構成を作成し、Step 2 活動計画報告会で発表する。

#	様式		作成の目的
ー	エグゼクティブサマリ		データ活用テーマ及び課題・対策・効果を定義。
1	全体像の整理		課題解決にあたって、現状とあるべき姿、Gapを整理。（一枚で概要が分かる）
2	可視化/分析対象データ		関係するデータとその流れを具体的に整理。
3	業務効果イメージ		業務効果のBefore/Afterをイメージ。 (だれが/いつ/どのように使うか、がわかる)
4	可視化/分析の詳細	全体イメージ	フリーフォーマットで自由にイメージを記載。
		項目詳細	
		必要リソース	
		検証結果・考察	

地域中小企業向け研修 ワークショップ（BI研修）（第2回、第4回）

概要

実践に向けた一例として、BIツール（Power BI）を活用したダッシュボードの活用事例や作成方法の演習、実務での活用方法についてワークショップ形式で実施。

効果 ※アンケート 一部抜粋

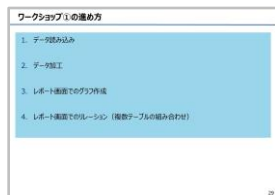
■ 実践に向けたBIツールの利用方法の体得 （グラフ作成/ビジュアライズ化/データ連携方法）

- ・ オンラインでの説明の際、初めてのため少しわかりにくい箇所もありましたが、問題なくグラフ等の作成ができ、良かった
- ・ PowerBIの使い方で、不明な点を解説して頂いた
- ・ 色々と質問させて頂けたので、悩みが解決できた
- ・ 例の表示を作成しながら自分なりのデータの見える化を実践できた

進め方とアウトプットイメージ

BIツール演習（初級編）

第2回



BIツール演習（個別）

第4回



BIツールを活用した事例の共有や、データ読み込み～データ加工～レポート画面でのグラフ作成～レポート画面でのリレーション を順を追って実際に操作する。

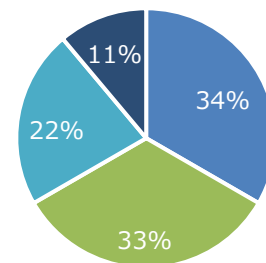
データ活用活動計画の策定にあたり、BIツールの利用方法、あるいは、テーマ設定に伴う課題や対策への相談を個別にて実施する。

アンケート結果

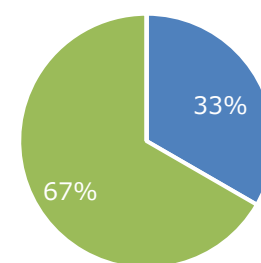
BIツール演習（初級編）

BIツール演習（個別）

当初は、BIツールの操作方法への理解に苦慮した点も見受けられたが、各社に寄り添った個別研修を行うことで、理解度が向上した結果となった。



■ 4.満足 ■ 3.概ね満足
■ 2.やや不満 ■ 1.不満



■ 4.満足 ■ 3.概ね満足
■ 2.やや不満 ■ 1.不満

1. 地域中小企業向け研修

3. 活動報告会

地域中小企業向け研修 活動報告会（第4回、第6回）

概要

各社の活動計画・活動報告に関する発表を行い、成果の可視化及び他社からのコメント、クニエからの意見を踏まえ、今後の活動に向けたインプットする。

効果 ※アンケート 一部抜粋

■各社の活動テーマの成果の可視化

- 品質を担保することで不良を削減し、修正・再作が減り高付加価値の加工時間の創出に繋がると思うが、どうDXと結びつくのか・どうDXで解決をするのが肝要と感じた
- 不良の真因究明に要する時間短縮と不良率自体の低減につながる活動で大きな成果が期待されると思った

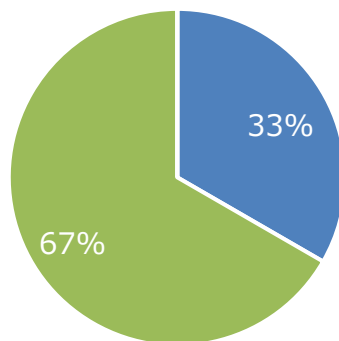
■他社発表を踏まえた、自社への学び

- 間材の原価の一元管理+ダッシュボード化は弊社の課題にも直結する課題でもある為、非常に参考になった
- 作業工程の標準化で無駄をそぎ落とすことへの挑戦ですが、機種別、部署別等詳細に作業時間の現状把握がなされている点が素晴らしい

アンケート結果

Step2 第4回 活動計画発表 研修全体評価

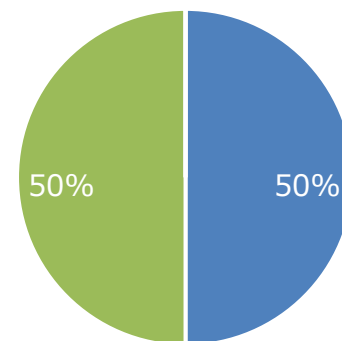
Step2活動計画の発表にて、各社の活動計画の確認及び他社・クニエからのコメントを踏まえ高い評価を得ることができた。



■ 4.満足 ■ 3.概ね満足 ■ 2.やや不満 ■ 1.不満

Step3 第6回 活動報告発表 研修全体評価

Step3活動報告の発表にて、各社の活動成果の確認及び他社・クニエからのコメントを踏まえ高い評価を得ることができた。



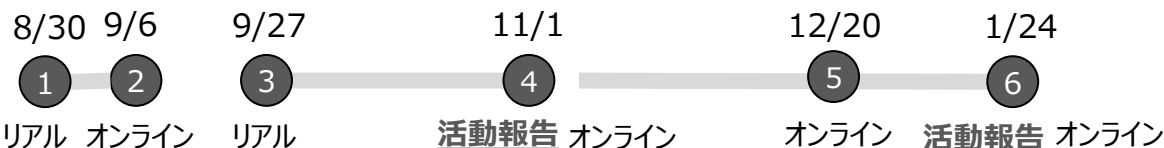
■ 4.満足 ■ 3.概ね満足 ■ 2.やや不満 ■ 1.不満

2. 企業別個別相談会

個別相談会 内容・スケジュール

- 地域中小企業向け研修にて、**データ活用の必要性や進め方・アプローチ、社内データの有効的な利用方法などを習得**。個別相談会にて、個社ごとに活動をサポート。

6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
----	----	----	----	-----	-----	-----	----	----



Step1 : 理解

データ活用理解

データ分析
ツール理解

Step2 : 企画

テーマ
検討

活動
計画
検討

活動
計画
作成

Step3 : 実施

要件定義

データ準備

分析・モデル構築・検証

現状調査・構想

ツール選定・設計

BI導入・構築

企画ブラッシュアップ

「データ活用」研修

- ・データ活用の有意性、活用手段、分析手法、世の中の動向、活用ツールを理解する
- ・自社の経営課題・業務課題に対するデータ活用による解決方法を立案する力を身につける



「活動計画書」作成

- ・自社の経営課題・業務課題の解決に向けて、データ活用活動計画を立案する
- ・データ活用の目的、現状把握（業務課題・データ状態）、将来のありたい姿とその効果を仮説立案し、机上で検証する

実証実験

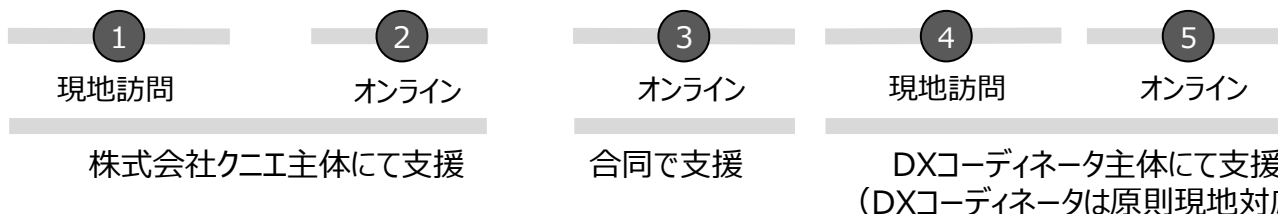
- ・データ活用活動計画に基づき、データ活用の効果を検証する
- ・仮説立案・机上検証の結果をツール等を用いて実証し、データ活用の効果を測る



地域
中小
企業
向け
研修

個別
相談会

※開催日は
個別に調整



個別相談会

概要

各社に対しヒアリングを行い、抱えている悩みやプロジェクト推進上の課題に対し、支援を実施。

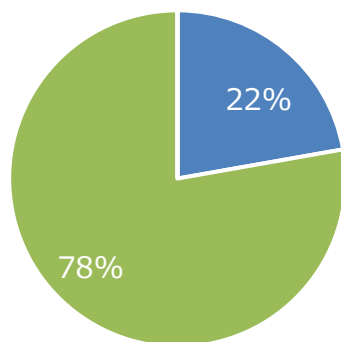
効果 ※アンケート 一部抜粋

■各社の抱えるデータ活用における課題を解決し、活動成果の創出を支援

- ・ 活動計画書でリソースについて不明点がありましたが、実際に持っているドキュメントシステムに置き換えることで内容を落とし込むことが出来た
- ・ 自分の視点では分からないことについて客観的にアドバイスを得られた
- ・ 現状のデータ取りに原価を含めるデータを加える提案を得た
- ・ 最終報告会に向けての報告資料作成のアドバイスの他、システム導入検討に対するアドバイス、注意すべき点など、親身になってサポート頂けたことが大変助かった

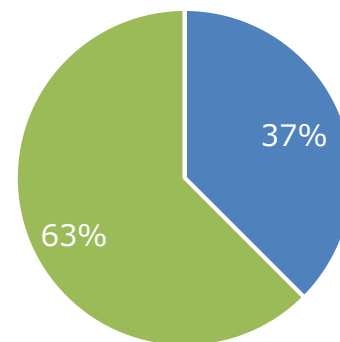
アンケート結果

第3回個別相談会 研修全体評価



■ 4.満足 ■ 3.概ね満足 ■ 2.やや不満 ■ 1.不満

第5回個別相談会 研修全体評価



■ 4.満足 ■ 3.概ね満足 ■ 2.やや不満 ■ 1.不満

個別相談会では、各社の現状把握・課題整理・計画策定・実証支援を伴走型で実施したことで、高い評価を得ることができた。

3. DXコーディネータ向け研修

研修内容・スケジュール（DXコーディネータ向け）

- 「DXコンサル方法」、「活動計画策定支援ポイント」、「実証支援ポイント」等を座学及びワークショップで学ぶとともに、**参加企業の個別相談対応等伴走支援を株式会社クニエと一緒に実施**することで、実践的な支援ノウハウを習得。DX支援人材（データ活用人材）の育成を行う。

6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
----	----	----	----	-----	-----	-----	----	----



Step1 : 理解

支援内容・役割理解

支援事例理解

DXコンサル方法理解

参加企業の
支援計画策定

「データ活用支援」研修

- 本事業におけるDXコーディネータとしての支援内容・役割及びDXコンサルティング方法を理解する
- 事例ベースで本事業の内容を理解する
- 参加企業の支援計画を策定する

Step2 : 企画

計画策定
方法理解計画策定支
援方法理解

支援サポート

「活動計画書」作成支援

- 事例ベースでデータ活用活動計画策定支援のポイントを理解する
- 仮説テーマに基づき活動計画を作成することで、活動計画書の作成方法を理解する



Step3 : 実施

実証支援
方法理解支援方法
個別相談支援結果
フィードバック

支援サポート

実証実験支援

- 事例ベースでデータ活用活動計画に基づく実証の支援のポイントを理解する
- 支援結果を個別にDXコーディネータにフィードバックし、事業終了後の支援方法のアドバイスを実施する

DX
コーディネータ
向け
研修

DXコーディネータ向け研修スケジュール

研修 ステップ	開催回	日時	内容
Step 1	第1回 (リアル)	2023年6月28日（水） 14:00-17:00	・事業概要・令和4年度事例紹介 ・DXコーディネータの自己紹介 ・支援内容・役割・DXコンサル方法の理解 ・第1回個別相談会に向けて
	第2回 (リアル)	2023年8月23日（水） 14:00-17:00	・支援計画の策定方法 ・ワークショップ（支援計画策定） （担当企業ベースに策定）
Step 2	第3回 (オンライン)	2023年9月20日（水） 14:00-17:00	・活動計画策定支援のポイント （事例含） ・DXコーディネータの活動報告・相談 ・ワークショップ（活動計画書策定）
Step 3	第4回 (オンライン)	2023年11月8日（水） 14:00-17:00	・実証支援のポイント（事例含） ・DXコーディネータの活動報告・相談 ・DXコーディネータの個別相談 （1社30分）
	第5回 (オンライン)	2024年1月31日（水） 13:00-17:00	・DXコーディネータへの個別フィードバック （1社15分） ・支援結果報告会 ・研修内容総括・修了式

3. DXコーディネータ向け研修

1. 講義

DXコーディネータに対し、支援概要やプロジェクト推進にあたり必要な支援方法について講義し、体得を図る。

効果
※アンケート
一部抜粋

■ DXコーディネータに対する、 役割、助言・管理方法の理解

- ・ 実際の企業の「データ活用課題整理」や「データ活用活動計画」などをもとに説明いただき満足だった
- ・ テーマ（課題）と効果が理解できた
- ・ 昨年度の支援内容を再認識することができた、十分理解できた

進め方とアウトプットイメージ

支援内容・役割・DXコンサル方法の理解

DXコーディネータの役割

DXコーディネータの役割は、活動計画書で設定したデータ活用テーマの実施検証を滞りなく行い、次のような役割を担っている。

プロジェクトマネジメント

プロジェクトは、特定の目的を達成するために必要となる一連の活動のことであり、組織が組織的に実行されている。

両利きのイノベーション～変革タイプと管理タイプ

イノベーションには、今ある価値を高める管理タイプに加え、新しい価値を創造する変革タイプがあり、どちらか一方に偏るということではなく、DXコーディネータは、2つのタイプが共存することを意識しておくことが重要である。

管理タイプ	変革タイプ
両利きのイノベーション 今ある価値を高める ビジネスを改良し、企業家の進化を促進する力 力をもとに組織に資源/定着させる 事業を継続発展させていくための人材を育成する チームの組織力を高める 課題を体系化する力 仕組み（システム等）の構築力 プロセスマネジメント力	新しい価値を創造する 環境の変化を読み取り、組織が方向性を方向性を示す 新しいビジネスを作ることにより、需要や市場を開拓する 個人の意思を変革する（意識改革） 変化を分析する力 ビジネス環境（市場・競合）の読解力 目標設定力/目標実現力

DXコーディネータの役割、プロジェクトマネジメント、DX推進上必要な知識等と支援を行うために必要なスキルを講義。

支援計画の策定方法

プロジェクト標準テンプレート

プロジェクト規定の標準テンプレートを使用する運用となります。

DXコーディネータのプロジェクト支援①

支援計画書は、DXコーディネータが企業実態を考慮するにあたり作成するプロジェクト支援計画書

DXコーディネータ支援事例

DXコーディネータは、改革（＝X：トランスフォーメーション）の視点で企業を支援することが肝要です。

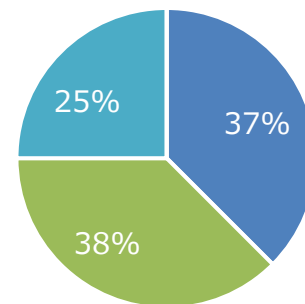
DXコーディネータの視点	Step1 データ活用データ抽出	Step2 データ活用活動計画	Step3 データ活用活動計画実証
戦略	①経営計画/事業戦略の把握 ②経営/営業/事業のKPI設定	③チャネル別の分析軸の提示 ④経営戦略との合意形成	⑤チャネル別の分析軸/提示 ⑥資金（制度）の提示
組織	⑦実施メンバーの整理	⑧実施メンバーの体制化	⑨継続的な組織体制の提示
業務	⑩現状プロセス可視化 ⑪業務課題の整理	⑫業務改善方針の立案 ⑬改善の業務プロセス可視化	⑭データ活用の実用化/活用
データ	⑯一元化の検討 ⑰顧客のデジタル化提示	⑱社内データ活用方法の提示 ⑲ワークフローへの人工導入	⑳データ活用検証の提示
システム	㉑現行システム構成の可視化 ㉒現行システム課題の抽出	㉓システム改善案の立案	㉔ツールの技術検証

支援計画の策定方法やプロジェクト標準テンプレートの使い方・過去の支援事例等を講義。

アンケート結果

支援内容・役割・DXコンサル方法の理解

初回は、具体的な支援内容への説明への課題を残したが、事業の実施内容への理解を深め、概ね高い評価を得ることができた。



■ 1.満足 ■ 2.概ね満足 ■ 3.やや不満 ■ 4.不満

DXコーディネータ向け研修 講義 (2/2) (第3回、第4回)

概要

DXコーディネータに対し、支援概要やプロジェクト推進にあたり必要な支援方法について講義し、体得を図る。

効果 ※アンケート 一部抜粋

■ DXコーディネータに対する、 活動計画策定支援・実証支援方法の理解

- 自分の視点では分からないことについて客観的にアドバイスを得られた
- 現状のデータ取りに原価を含めるデータを加える提案を得た
- 最終報告会に向けての報告資料作成のアドバイスの他、システム導入検討に対するアドバイス、注意すべき点など、親身になってサポート頂けたことが大変助かった

進め方とアウトプットイメージ

アンケート結果

活動計画策定支援のポイント

実証支援のポイント

実証支援のポイント（事例含）

データ活用活動計画書フォーマット

● 活動計画書の各構成を作成し、Step 2 報告でご発表いただきます。

#	形式	作成の目的
1	全体像の整理	全体像の整理
2	可視化/分析対象データ	可視化/分析対象データ
3	業務効果イメージ	業務効果イメージ
4	可視化/分析の経緯	可視化/分析の経緯

活動計画・報告書：#1-全体像の整理 ①

【あるべき姿】

【現状とGAP（//原図）】

① 現状とされる業務の図を整理して欲しい

② 現状とされる業務の図を整理して欲しい

③ 現状とされる業務の図を整理して欲しい

④ 現状とされる業務の図を整理して欲しい

⑤ 現状とされる業務の図を整理して欲しい

⑥ 現状とされる業務の図を整理して欲しい

⑦ 現状とされる業務の図を整理して欲しい

⑧ 現状とされる業務の図を整理して欲しい

⑨ 現状とされる業務の図を整理して欲しい

⑩ 現状とされる業務の図を整理して欲しい

⑪ 現状とされる業務の図を整理して欲しい

⑫ 現状とされる業務の図を整理して欲しい

⑬ 現状とされる業務の図を整理して欲しい

⑭ 現状とされる業務の図を整理して欲しい

⑮ 現状とされる業務の図を整理して欲しい

⑯ 現状とされる業務の図を整理して欲しい

⑰ 現状とされる業務の図を整理して欲しい

⑱ 現状とされる業務の図を整理して欲しい

⑲ 現状とされる業務の図を整理して欲しい

⑳ 現状とされる業務の図を整理して欲しい

㉑ 現状とされる業務の図を整理して欲しい

㉒ 現状とされる業務の図を整理して欲しい

㉓ 現状とされる業務の図を整理して欲しい

㉔ 現状とされる業務の図を整理して欲しい

㉕ 現状とされる業務の図を整理して欲しい

㉖ 現状とされる業務の図を整理して欲しい

㉗ 現状とされる業務の図を整理して欲しい

㉘ 現状とされる業務の図を整理して欲しい

㉙ 現状とされる業務の図を整理して欲しい

㉚ 現状とされる業務の図を整理して欲しい

㉛ 現状とされる業務の図を整理して欲しい

㉜ 現状とされる業務の図を整理して欲しい

㉝ 現状とされる業務の図を整理して欲しい

㉞ 現状とされる業務の図を整理して欲しい

㉟ 現状とされる業務の図を整理して欲しい

㊱ 現状とされる業務の図を整理して欲しい

㊲ 現状とされる業務の図を整理して欲しい

㊳ 現状とされる業務の図を整理して欲しい

㊴ 現状とされる業務の図を整理して欲しい

㊵ 現状とされる業務の図を整理して欲しい

㊶ 現状とされる業務の図を整理して欲しい

㊷ 現状とされる業務の図を整理して欲しい

㊸ 現状とされる業務の図を整理して欲しい

㊹ 現状とされる業務の図を整理して欲しい

㊺ 現状とされる業務の図を整理して欲しい

㊻ 現状とされる業務の図を整理して欲しい

㊼ 現状とされる業務の図を整理して欲しい

㊽ 現状とされる業務の図を整理して欲しい

㊾ 現状とされる業務の図を整理して欲しい

㊿ 現状とされる業務の図を整理して欲しい

(参考) 活動計画・報告書：#4-可視化/分析の詳細

全体イメージ

業務機能一覧 (BFC: Business Function Chart)

データ分析でできること

● データ分析は大きく分けて「可視化」「要因特定」「予測」「最適化」の4つのパターンに分けることができます。データ活用目的やデータ活用テーマに合わせて適切なパターンを採用する必要があります。

データ分析のパターン

可視化
データグラフ化するなどして、何が起きているかを明らかにする

要因特定 (因果関係の推論)
離れた関係性 (相関関係・因果関係) を見つけ、なぜ起こったかを明らかにする

予測
過去と対比してデータから未来に何が起ころうかを明らかにする

最適化
これまでの行動と結果から最適なパターンを明らかにする

データ活用目的

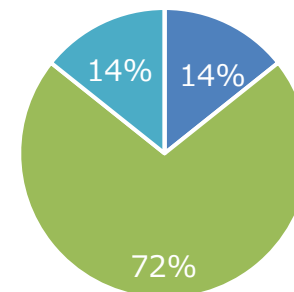
売上増大

オペレーション効率化

新サービス創出

目的達成に貢献する具体的な活動であることを明確に

実証支援では、情報量が多く、説明の時間不足が課題となったが、事例を含めた支援内容についての理解を深めたことで、概ね満足度の高い結果となった。



活動計画書・報告書の作成方法について講義

実証を進める上でのデータ分析の方法や業務機能一覧（BFC）の活用法等を講義

■ 1.満足 ■ 2.概ね満足 ■ 3.やや不満 ■ 4.不満

3. DXコーディネータ向け研修

2. ワークショップ

DXコーディネータ向け研修 ワークショップ（第2回、第3回）

概要

DXコーディネータに対し、実践に向けた支援計画策定方法・活動計画書の策定方法についてワークショップ形式で実施・作成結果を各社発表。

効果 ※アンケート 一部抜粋

■ DXコーディネータに対する、支援計画書/活動計画書の策定方法の理解及び意識向上

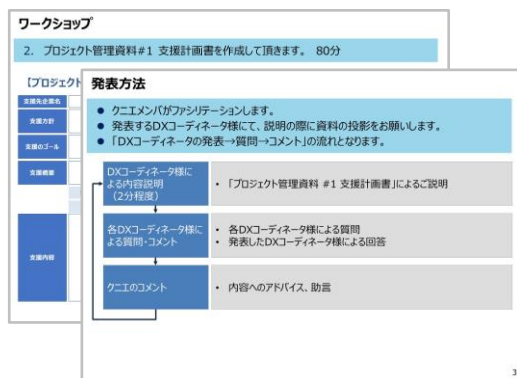
- 具体的に支援計画書を作成し、コーディネータとしての覚悟が高まった
- 他の支援機関や支援企業の情報を聞くことができ、幾つか気づきがあった

■ データ活用の活動内容の把握/助言すべきポイントへの理解

進め方とアウトプットイメージ

ワークショップ（支援計画策定）

第2回



ワークショップ（活動計画書策定）

第3回



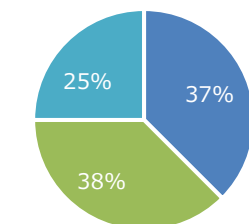
参加したDXコーディネータは、支援先企業ごとに、支援計画書の作成結果を発表し、コメントを出し合う。

参加したDXコーディネータごとに、エグゼクティブサマリと活動計画の作成結果を発表し、コメントを出し合う。

アンケート結果

ワークショップ（支援計画策定）

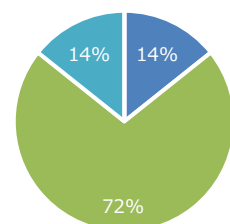
ワークショップの時間不足以外は、支援のための計画策定が理解でき、概ね満足度の高い結果となった。



■ 1.満足 ■ 2.概ね満足
■ 3.やや不満 ■ 4.不満

ワークショップ（活動計画書策定）

ビジョンと課題、テーマが整理でき、概ね満足度の高い結果となった。



■ 1.満足 ■ 2.概ね満足
■ 3.やや不満 ■ 4.不満

本事業の管理資料アウトプット

- 本事業では、各支援機関が企業を伴走支援するため「プロジェクト管理資料」を作成し、提出する。

プロジェクト管理資料

プロジェクト期間を通じて、標準テンプレートに則り、以下の管理資料を作成する。

- 支援計画書
- プロジェクト体制と役割
- WBS
- 課題管理表
- 文書チェックリスト
- 個別相談会アジェンダ
- 個別相談会議事録

統合マネジメント：支援計画書

支援先企業名

統合マネジメント：プロジェクト体制図

プロジェクトを効率的に運営するために、プロジェクト体制を定義します。

統合マネジメント：プロジェクト体制図

プロジェクトを効率的に運営するために、プロジェクト体制を定義します。

統合マネジメント：課題管理

課題管理表では、5 W 1 H（What, Why, How, Who, When, Where, How much）を記載し、プロジェクト進捗の阻害要因を解消します。

2. 管理様式

項目	記載方法
管理番号	連番で付与してください。
起票日	課題が発生した際に、起票日を記入してください。
課題内容	簡潔に、関係者に課題内容が伝わるように記入してください。
対応方法・結果	簡潔に、対応方法・対応結果がわかるように記入してください。
担当者	DXコーディネータ、企業担当者、事務局メンバなど、対応する役割を記入してください。
対応期限日	起票時に、見込みの対応期限日を記入してください。
対応完了日	対応が完了した時点で、完了日を記入してください。
備考	必要に応じて、その他の共有事項を記入してください。

スコープ・スケジュールマネジメント：WBS管理

プロジェクトは、特定の目的を達成するために必要な業務の集まりであり、明確な範囲が定められています。

コミュニケーションマネジメント：アジェンダ

個別相談会の開催時に、アジェンダを作成し、会議を円滑に進めると共に、会議内で協議します。

コミュニケーションマネジメント：議事録

個別相談会の開催後、議事録を作成し、会議の決定事項、宿題事項、連絡事項を関係者で合意することが重要です。

中小企業データ活用ブートキャンプ 企業名 議事録

議題	2023年●月●日 中小企業データ活用ブートキャンプ 第●回個別相談会	作成日	2023年●月●日 (●) ●
開催日	2023年●月●日 (●) XX:XX~XX:XX	作成者	●●●
場所	●●●		
出席者	-企業名：参加者名		
(敬称略)	-企業名：参加者名		
	-企業名：参加者名(記)		
【決定事項】	●●●		
【宿題事項】※議事で(●)の箇所	●●●		
【連絡事項】	●●●		
議事 (※原則質疑部分のみ記載、敬称略)	●●●		
1. ●●●について	→ (参加者名) ●●● ●●●		
	→ (参加者名) ●●● ●●●		
	以上		

7

27

【プロジェクト管理資料】#1 支援計画書

支援先企業名

支援方針

企業のデータ活用を進める上で、経営的視点、業務的視点、システムの視点で伴走支援を行い、企業のDX効果を創出する

支援のゴール

データ活用テーマを検証・実現することにより、売上拡大・業務効率化・生産性向上など、実質的な効果創出に寄与する

支援概要

企業の経営層及びDX推進担当者と協議し、企業が抱える問題を共に整理し、データ活用による実現手段を共に考え、実現に向けた伴走支援を行う

Step1 ～9月末

Step2 ～10月末

Step3 ～1月中旬

課題整理

計画策定

検証

報告

支援内容

対象企業へ以下に関する
助言・サポートを行う

- ・ 業務の現状把握
- ・ 内在する問題の抽出
- ・ 問題の真因特定
- ・ 課題定義
- ・ 対策方針の立案

対象企業へ以下に関する
助言・サポートを行う

- ・ 活動テーマの設定
- ・ 活動テーマの実現可能性の検証
- ・ 期待する効果の客観的な検証
- ・ 関連する参考情報の収集

対象企業へ以下に関する
助言・サポートを行う

- ・ 検証に資する技術情報の提供

対象企業へ以下に関する
助言・サポートを行う

- ・ 活動報告のまとめ方
- ・ 情報開示の調整

3. DXコーディネータ向け研修

3. 支援結果報告会

DXコーディネータ向け研修 支援結果報告会（第5回）

概要

各DXコーディネータの支援計画・報告書・活動結果をプレゼン形式で発表し、コメントを出し合う。

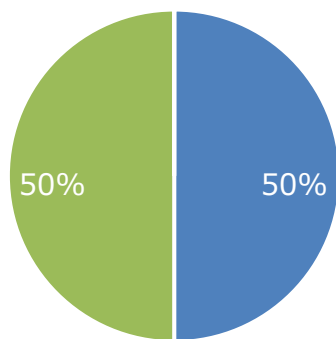
効果 ※アンケート 一部抜粋

- DXコーディネータに対する、各企業に伴走支援を行った活動成果の可視化
- 外部フィードバックによる今後の課題の明確化及び、改善策の明示

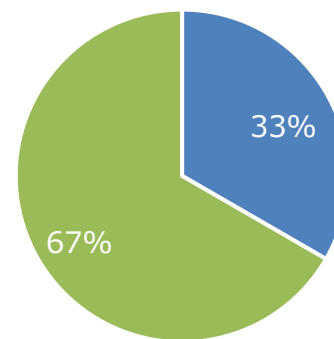
アンケート結果

支援結果報告会 評価

支援結果報告会では、各DXコーディネータの伴走支援の進め方・管理方法・伴走のポイントを研修・実践したことで、高い評価を得ることができた。



■ 1.満足 ■ 2.概ね満足 ■ 3.やや不満 ■ 4.不満



■ 1.有益 ■ 2.概ね有益 ■ 3.あまり役に立たなかった ■ 4.無益

4. 実施結果

地域中小企業向け研修 講義 実施結果

- 地域中小企業向け研修の講義では、DX及びデータ活用を企業で実施する上で必要となる知識や事例を学ぶことで、新たなスキルを習得し、DXリテラシーが向上した。
- 専門的な技術スキルの向上は、今後の課題である。

DXリテラシー標準

研修対象

DXリテラシー標準策定のねらい

働き手一人ひとりが「DXリテラシー」を身につけることで、DXを自分事ととらえ、変革に向けて行動できるようになる

Why DXの背景

社会の変化
顧客価値の変化
競争環境の変化

What DXで活用されるデータ・技術

データ	社会におけるデータ
	データを読む・説明する
	データを扱う
	データによって判断する
デジタル技術	AI
	クラウド
	ハードウェア・ソフトウェア
	ネットワーク

How データ・技術の活用

活用方法・事例	データ・デジタル技術の活用事例
	ツール活用
留意点	セキュリティ
	モラル
	コンプライアンス

マインド・スタンス

デザイン思考／アジャイルな働き方

新たな価値を生み出す
基礎としてのマインド・スタンス

顧客・ユーザーへの共感	常識にとらわれない発想	反復的なアプローチ	
変化への適応	コラボレーション	柔軟な意思決定	事実に基づく判断

- ・ 自社でDX・データ活用を推進するために必要なスキル習得の研修により、基礎リテラシーの向上ができた
- ・ デジタル技術やセキュリティなどの専門的スキルの醸成は引き続き、習得のための機会を創出することが肝要である

地域中小企業向け研修 ワークショップ 実施結果

- ワークショップにて、各企業が「ビジョン～課題～データ活用計画」の順を追って作業し、DXコーディネータが伴走支援で一緒に考えることで、企業及びDXコーディネータの理解度の向上を促進することができた点が有益だった。

ビジョン・課題の整理

- 自社のあるべき姿と課題を整理することで、DX・データ活用の達成目標が明確になり、社内での共通認識を醸成することができた

課題整理ワークシート：#3-タスク整理

課題整理ワークシート：#2-現状とあるべき姿の定義

課題整理ワークシート：#1-課題整理シート

DXビジョニングシート

- 企業の未来を想像してみましょう！

	未来の姿	実現するための課題
10年後に なりた い企業 の姿 は？	- 業務の流れ（戦略～営業～生産～会計～分析）が自動で連携されて、正しい状況把握と分析に基づき、タイムリーな経営判断を行うことができる - 効率的な業務運営を行い、社員のコア業務に集中することで、空き時間をイノベーションの検討に活用し、新たな企業価値を創出できる組織にさらに成長する	- 社内の業務プロセスの可視化・効率化 - 社内の情報システムの可視化・効率化 - 経営数値のダッシュボード化
その時に DXで何 ができ るとよ いか？	- システムとツールがシームレスに連携し、システム入力された全てのデジタルデータを基に、多角的なデータ分析を行うことができる - 取引先との受発注、契約、請求などのデータが紙からデジタルへ転換され、ムダ・手間無く円滑に処理が完結する - 社員がデジタルスキルを身につけて、自ら新たなデジタルイノベーションを創出できる	

データ活用活動計画の立案

- データ活用テーマの設定、及び活動計画を作成することで、本事業の取組と記載方法を理解し、計画精度を高めることができた

活動計画・報告書：#2-可視化/分析対象データ

活動計画・報告書：#1-全体像の整理 ②

活動計画・報告書：#1-全体像の整理 ①

活動計画・報告エグゼクティブサマリ

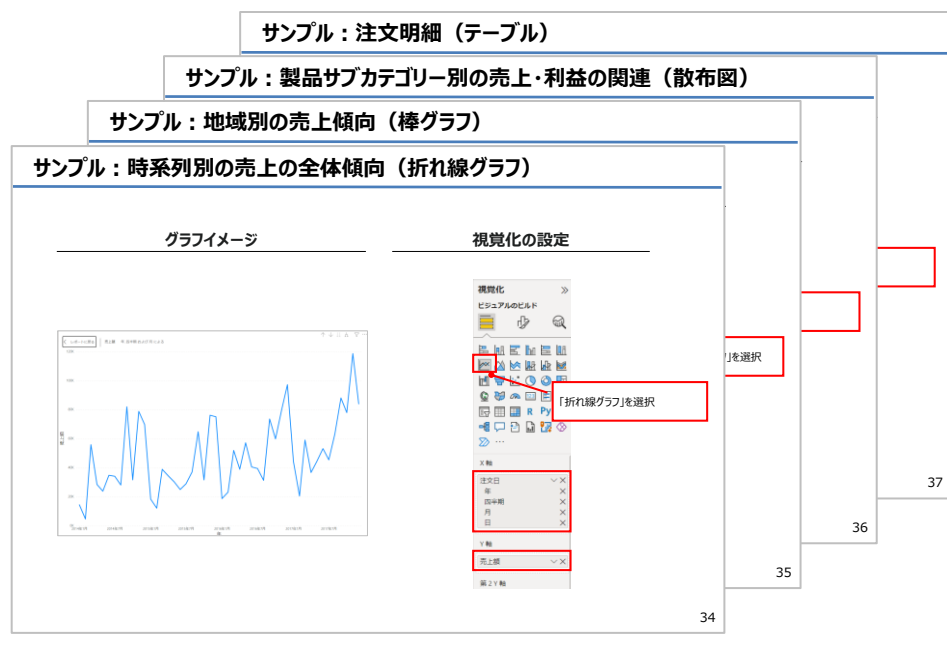
テーマ	宿泊施設のシミュレーションモデル	
対象業務/領域	収支管理、予算管理、実績比較、将来予測	
	活動計画	活動結果
解決したい課題	宿泊施設の稼働率低下に伴い、ダイナミックプライシングの導入による新たな収益モデルを実現したい	※ 報告時に記載
課題解決に向けた対策	宿泊施設のタイムリーな稼働率可視化を実現し、効果的な価格設定や施策実施を可能とする	※ 報告時に記載
課題解決による効果	高稼働率の実現による売上拡大を実現する	※ 報告時に記載
今後の活動	※ 報告時に記載	

地域中小企業向け研修 ワークショップ（BI研修） 実施結果

- BIツールワークショップでは、参加者がBIツールを実際に操作してみることで、Excelと比較しても簡単に利用できることに気づき、抵抗感を払しょくすると共に、新たなスキルを習得することができた。

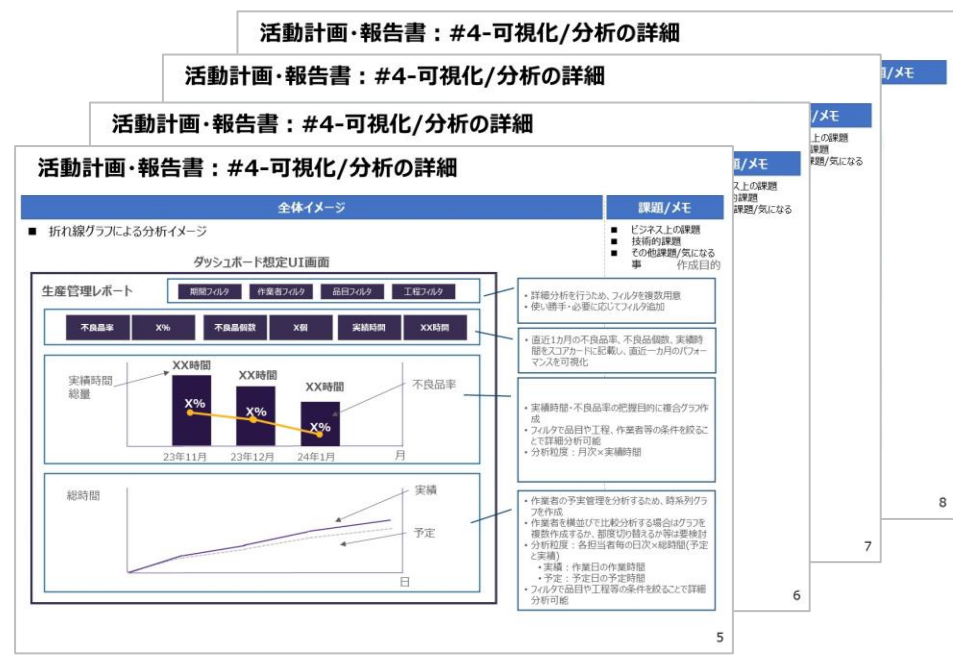
BIツール研修（初級編）

- ・ 研修講師に合わせて操作し、質疑応答を受けながら進めることで、理解を深めると共に、分析イメージを膨らませることができた



BIツール研修（個別相談）

- ・ 自社のデータを利用してBIツールを操作してみることで、データ活用の実務利用をイメージすることができ、理解度が各段に向上した



地域中小企業向け研修 活動報告会 実施結果

- 全ての参加企業が、濃淡はあるものの成果を創出し、本事業を修了。

企業名	データ活用テーマ	実施結果
株式会社 土屋合成	データを用いた判断指標の作成	- 必要な情報のみを活用できるようにPower BIを活用して見える化 - VBAを利用しデータクレンジングを実施することでリレーション可能な対応 - Power BIの使用手順整備
株式会社 日東電機製作所	構造設計の出図時間削減	- プロセスの可視化により、定例会議にて業務改善を協議する仕組みを構築 - 出図作業の標準化とドキュメント整備による作業時間の削減
城北機業 株式会社	原価情報の一元管理	- 間材一元管理システムのパッケージ機能確認と選定のための比較・検証 - システム導入後の間材業務の削減時間の算出
某社（製造業）	高付加価値製品の加工時間創出	- 不具合対応時間の集計・可視化による相関検証から影響の低さを発見 - 生産スケジュール管理の見える化・最適化による効果創出へ転換
西田技研工業 株式会社	生産量維持、向上のための加工技術承継	- 切削加工技術の基礎知識テキスト化と新人社員による理解度の定期検証 （プログラム・治具・刃物など）関連情報の一元化と作業手順書の作成 - 作業手順書による新人の加工作業の独力化と作業時間の短縮化を実現
株式会社 八洲	工事管理データの運用適正化＋活用	- PowerBIデモ作成による社内運用のイメージ化 - データ分析を想定したKintoneによる工事管理システムの構築着手
株式会社 オギノパン	データを活用した各店の売上予測と発注業務の効率化	- 各店の売上予測立案のためのデータ集計、分析 - 店舗集客と天候の相関分析による店舗売上への影響度調査
中村建設 株式会社	工事施工業務の可視化・効率化	- 現場監督業務フローの作成と施工プロセス業務の一覧化 - 施工プロセスの関連システムの可視化と改善点の発見

個別相談会 実施結果

- 個別相談会は、伴走支援では大変有益であり、今年度も企業と良好な関係を構築することができただけでなく、DXコーディネータと地域DX推進に向けた発展的・建設的・継続的な関係構築を構築することができた。

リアル（対面）対応

- ・ 初回挨拶によるアイスブレイク、工場内見学、システム機能確認など、各企業をよく知ることは、関係構築に非常に有益であり、高い満足を得ることができた

個別相談会（現地訪問）

- ・ 対面協議により、企業の抱える業務プロセス課題、データ保管・活用状況、利用システムなどを正しく把握し、訴求する助言の提供を実施した

DXコーディネータの訪問による伴走支援

- ・ DXコーディネータによる頻繁な企業訪問により、きめ細かい伴走支援を実施し、企業とDXコーディネータの間に、大きな信頼関係が育まれたことで、企業のDX継続に繋がる形ができた

オンライン対応

- ・ 対面協議で構築した円滑な関係と正しい現状理解により、オンライン会議の協議事項が明確になり、短時間で効果的な助言や情報を提供することができた

個別相談会（オンライン）

- ・ 3回予定の個別相談会に加え、進捗状況や課題により、エクストラ回を設けることで、丁寧かつ密度の濃い支援を実施し、成果創出に寄与できた

サンプル情報の提供

- ・ データ変換・加工、BIツールによる分析グラフ、業務機能一覧など、データ活用に関連した様々な情報の提供により、企業の理解促進に寄与できた

DXコーディネータ向け研修 講義 実施結果

- DXコーディネータのスタイルを、個々に確立することができた。次へのモチベーションを醸成できた。

DX推進スキル標準 共通スキルリスト

研修対象

ビジネス変革	戦略・マネジメント・システム ビジネス戦略策定・実行 システムズエンジニアリング プロダクトマネジメント エンタープライズアーキテクチャ 変革マネジメント プロジェクトマネジメント	テクノロジー	ソフトウェア開発 コンピューターサイエンス チーム開発 ソフトウェア設計手法 ソフトウェア開発プロセス Webアプリケーション基本技術 フロントエンドシステム開発 バックエンドシステム開発 クラウドインフラ活用 SREプロセス サービス活用
	ビジネスモデル・プロセス ビジネス調査 ビジネスモデル設計 ビジネスアナリシス 検証（ビジネス視点） マーケティング ブランディング		デジタルテクノロジー フィジカルコンピューティング その他の先端技術 テクノロジートレンド
	デザイン 顧客・ユーザー理解 価値発見・定義 設計 検証（顧客・ユーザー視点） その他のデザイン技術		セキュリティマネジメント セキュリティ体制構築・運営 セキュリティマネジメント インシデント対応と事業継続 プライバシー保護
	データ・AIの戦略的活用 データ理解・活用 データ・AI活用戦略 データ・AI活用業務の設計・事業実装・評価		セキュリティ技術 セキュア設計・開発・構築 セキュリティ運用・保守・監視
データ活用	AI・データサイエンス 数理設計・多変量解析・データ可視化 機械学習・深層学習	パーソナルスキル	ヒューマンスキル リーダーシップ コラボレーション
	データエンジニアリング データ活用基盤設計 データ活用基盤実装・運用		コンセプチュアルスキル ゴール設定 想像的な問題解決 批判的思考 適用力

- DXコーディネータとして必要となる「コンサルティングスキル」「マネジメントスキル」「データ活用スキル」習得のための研修により、リテラシーの向上ができた
- デジタル技術やセキュリティなどの専門的スキルの醸成は、引き続き習得のための機会を創出することが肝要である

DXコーディネータ向け研修 ワークショップ 実施結果

- DXコーディネータの役割や振る舞いについての理解を醸成するには役立った。
- 企業のデータ活用取組を先行して体験することで、伴走支援のポイントを理解した。

支援計画の立案

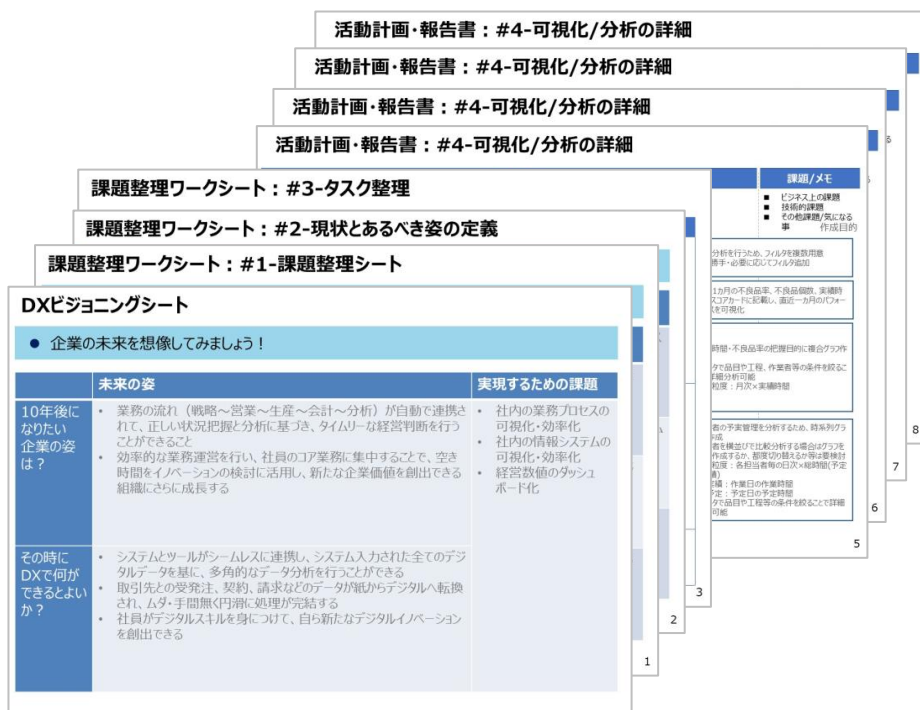
- 各企業の状況を踏まえて、支援計画書を作成することで、伴走支援のゴール及び支援内容を明確にすると共に、DXコーディネータのコミットメントを促した

【プロジェクト管理資料】#1 支援計画書

支援先企業名				
支援方針	企業のデータ活用を進める上で、経営的視点、業務的視点、システムの視点で伴走支援を行い、企業のDX効果を創出する			
支援のゴール	データ活用テーマを検証・実現することにより、売上拡大・業務効率化・生産性向上など、実質的な効果創出に寄与する			
支援概要	企業の経営層及びDX推進担当者と協議し、企業が抱える問題を共に整理し、データ活用による実現手段を共に考え、実現に向けた伴走支援を行う			
支援内容	Step1 ～9月末	Step2 ～10月末	Step3 ～1月中旬	
	課題整理	計画策定	検証	報告
	対象企業へ以下に関する助言・サポートを行う	対象企業へ以下に関する助言・サポートを行う	対象企業へ以下に関する助言・サポートを行う	対象企業へ以下に関する助言・サポートを行う
	- 業務の現状把握 - 内在する問題の抽出 - 問題の真因特定 - 課題定義 - 対策方針の立案	- 活動テーマの設定 - 活動テーマの実現可能性の検証 - 期待する効果の客観的な検証 - 関連する参考情報の収集	検証に資する技術情報の提供	- 活動報告のまとめ方 - 情報開示の調整

ビジョン・課題の整理・データ活用活動計画の立案

- 自組織のDXビジョン、課題、データ活用テーマの設定、活動計画を作成してみることで、伴走支援のポイントを理解した



DXコーディネータ向け研修 支援結果報告会 実施結果

- 各DXコーディネータの成長に貢献し、今後の取組に繋げる事ができた。

DXコーディネータの感想

DXコーディネータとして得たこと（一部抜粋）

- ・ 研修を通じて、データ分析の重要性やDXについて理解できた。
- ・ コーディネータとして活動するステップを理解することができた。
- ・ PowerBIの基本的な活用方法が理解できた。応用については、さらに習得が必要。
- ・ 当事者意識を持って企業の経営者や職員を巻き込んだ連携がプロジェクトの推進につながる。
- ・ 一緒に考えることの重要性を改めて実感しました。
- ・ ビジョンの設定と課題の整理が重要であり、取引先と向き合っその経験を得られたこと。
- ・ コーディネーターとしての考え方・取組姿勢・必要知識。
- ・ PowerBIを始めとしたBIツールの機能と出来ること・出来ないこと・データの重要性・データ構成の重要性。

今後のDXコーディネータとしての取組予定（一部抜粋）

- ・ DX支援の事例収集と、個人的なデータ分析に関するスキル強化。スキル強化については、自主的に外部機関で研修を受けることを検討中。
- ・ 参加企業に対して、引き続き中間目標達成に向けた活動を支援していく。
- ・ 先ずは不足の知識・スキルを協力ベンダーの力を借りながら徐々に経験を得て自分の知識・スキルとする努力をする。
- ・ 伴走支援を実践する中でスキル向上に努めていきます。
- ・ 価値創造に向け、データ収集・蓄積データ活用が重要であることを提案できる知識とスキルを習得していきます。

まとめ

DXコーディネータ向け研修では、DX、データ活用に関する基礎知識をはじめ、企業のDX支援ノウハウや技術的な対応方法などを講義で学んでいただいた。また、企業との個別相談会や活動計画書の企画・実証の支援を通じて実践的な支援の場を提供した。

初めてDX支援に取り組むコーディネータが多く、苦慮する点もあったと推察するが、各DXコーディネータが研修で得られた知識やノウハウを活かして企業の伴走支援を実施し、支援企業の成果創出に貢献する事が出来た。

企業とDXコーディネータがそれぞれの役割を理解してプロジェクトの完遂に向けて取り組む事が重要であり、本事業ではそのためのスキル向上に貢献する事が出来た。

それぞれのDXコーディネータが今後もスキル向上に取り組み、最適な支援体制を構築していただくとともに多くの企業のDX推進に貢献していただきたい。

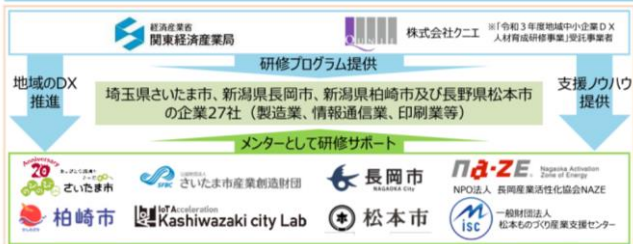
3 力年の実施結果

- 本事業は、令和3・4・5年度の3力年にて、地域のDX及びデータ活用推進による「企業競争力（＝稼ぐ力）の強化」を目的に、支援機関（自治体・外郭団体、地域金融機関等）と中小企業への支援を実施した。
- 15支援機関の支援の下、参加企業38社が、実務へ適用し効果を創出するためのテーマ・目標を設定。データ活用の有用性を認識し、本事業を完遂することで、データの可視化・分析による業務上の成果を得ることができた。
- 支援機関とDX推進企業が先導役となり、地域中小企業のDX・データ活用を継続推進することで、地域全体の企業競争力を高めることを推奨する。

令和3年度

地域中小企業データ活用ブートキャンプ事業の概要

- 関東経済産業局管内の4地域と連携し、各地域の中小企業等を対象に「データ活用人材」の育成を行い、地域企業のDXを推進する。
- 自治体及び支援機関等がメンターとして参画することで、地域におけるデータ活用人材育成支援のノウハウ習得も目指す。



- 本事業の成果を当局管内の自治体・支援機関へ広く普及し、他地域への横展開を図る。
- 令和4年度以降、4地域において、各地域の状況に応じたデータ活用に関する支援プログラムの展開を目指す。

令和4年度

令和4年度地域中小企業データ活用ブートキャンプ事業の概要

- 関東経済産業局管内の自治体及び金融機関等（以下、連携団体）と連携し、各地域の中小企業を対象に「データ活用人材」の育成支援を行い、地域企業のDXを推進。
- 連携団体向けに、データ活用人材の育成支援ノウハウを習得できる研修プログラムを提供することにより、地域の支援人材も育成し、各地域において、自立的にデータ活用人材の育成支援が展開されていくことを目指す。

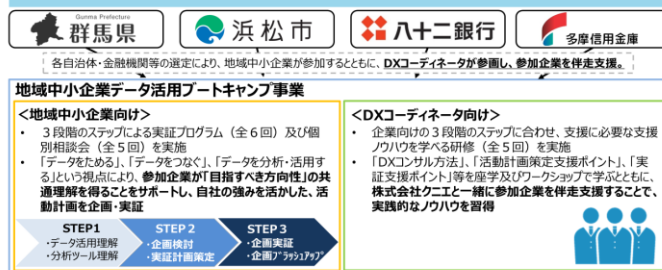


各地域の中小企業17社（製造業、サービス業、小売業等）

令和5年度

令和5年度地域中小企業データ活用ブートキャンプ事業概要

- 関東経済産業局管内の4地域程度にて、自治体・金融機関等と連携し、各地域の中小企業を対象に「データ活用人材」の育成を行い、地域企業のDXを推進。
- 「DXコーディネータ」に対して、支援人材育成研修も実施することで、各地域における支援プログラムの展開を期待。



各地域への普及・横展開 令和6年度以降、各地域におけるプロジェクトの展開をサポート・他地域への展開に向け成果を普及